

これまでの成果と現地からの声

貧困

村の貯蓄を改革し、670万人以上の 経済的自立を支援

1991年にCAREが世界で初めて開発した「村内貯蓄貸付組合」。今日では、世界46カ国に拡がり、32万の組合が設立されています。自分の意志で自由に使えるお金を手にすることで、女性の家庭内での発言力が高まっています。

子どもに使うお金を夫に頼む必要がなくなりました。まだ参加していない人にも、大変なためになると伝えたいです。

ラビ・イッサさん(ガーナ)



ジェンダー
平等

男女平等を促す事例を盛り込んだ 学習雑誌を約80,000世帯に配布

全ての事業で、ジェンダー平等と女性と女子のエンパワメントを進めています。例えば、東ティモールで配布している学習雑誌「ラファエック」。ジェンダー平等を促す事例をわかりやすく掲載するなど工夫をしています。

教室内の男女の平等な扱いの事例を示したり、歴史上の女性の役割に焦点を当てるなどの工夫をしています。

シンプリシオ・バーボサ
(CARE東ティモール事務所)



紛争・
自然災害

2011年春、東日本大震災をうけ 岩手県で緊急支援活動を実施

およそ2年にわたり、岩手県の沿岸部を中心に、食糧の安全保障、生活支援、心のケアを柱として、地元住民、行政、団体などと連携し、支援活動を展開しました。

CAREのスタッフが3日間かけて一軒一軒回って(お米とお味噌を)手渡してくれたことが忘れられません。支援が届いていなかった半壊住宅の方々に目を向けてくれたことが嬉しかったです。

八幡幸子さん(岩手県大槌町)



CAREは、国連をはじめ各種専門機関や
支援実施国から高い評価と信頼を受けている
国際協力NGOです

●組織概要 (2019年5月現在)

団体名 公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン
(CARE International Japan)
創立年月 1987年5月(2010年に公益財団法人として登記)
名誉会長 柳井 俊二(国際海洋法裁判所 判事)
理事長 目賀田 周一郎
(中央大学法学部 教授、元メキシコ駐劄特命全権大使)

●これまでの受賞歴

第3回「日経ソーシャルイニシアチブ大賞」大賞(2015年)

公益財団法人
ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031
東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階
Tel: 03-5950-1335 Fax: 03-5950-1375
Email: info@careintjp.org



ケアインターナショナル

検索



<http://www.careintjp.org>



あなたにあった方法で CAREを支援してください

毎月定額のご寄付、特定事業へのご寄付、不要品のご寄付など
ご自身にあった方法でCAREの活動を
支援してください。

<http://www.careintjp.org/support/>



ケア・インターナショナル ジャパンへのご寄付は
寄付金控除の対象です



変える、
女性も女子も活躍する
豊かな世界に

国際協力NGO
ケア・インターナショナル ジャパン



歴史は、 一つの小包から 始まりました



第二次大戦後、 米国から欧州に送られた 「CAREパッケージ」



食糧などの緊急支援物資とともに、
他者を想いやる心が詰まっていました。

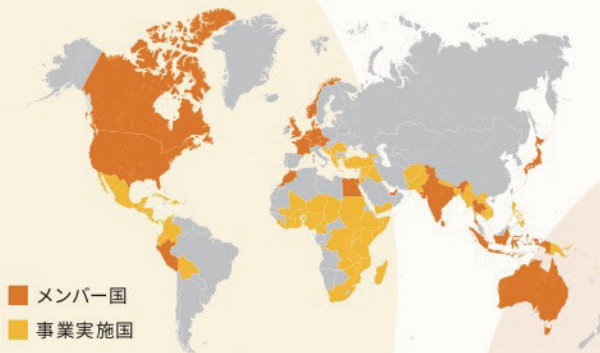
その心は、現代のCAREパッケージにも込められているものの、「箱」にはおさまりません。今は、女子教育や母子保健といった**女性と女子**にフォーカスした支援という形で世界中に届けられています。

日本にも届いた 「CAREパッケージ(ケア物資)」 1948年から8年にわたり 困窮した1,000万人の日本人を救いました。

1987年、「次は世界に恩返しを」とケア・インターナショナル ジャパンを発足。これまで、延べ77カ国において最も困難な状況におかれた人々の自立を支援してきました。



14のメンバー国がケア・インターナショナルを構成。
世界90カ国以上で活動し、
年間6,300万人に支援を届けています。



CAREは、貧困のない、 すべての人々が尊厳をもって安心して 暮らせる世界を目指しています

CAREは、女性と女子を
活動の中心にすえています。

貧困をなくすためには、女性と女子を含むすべての人々が
平等な権利や機会を得る必要があるからです。

貧困

途上国では、約5人にひとりが1日1.25
米ドル未満で生活しています。貧困層
の7割が女性と子どもです。

女性の経済的なエンパワメントが、生活の
向上に大きく寄与することから、女性の意
思決定の場への参画を促し、経済的な自立
を支援しています。



ジェンダー平等

女性は、教育、就業や結婚など、様々な
機会ですら平等に扱われていません。

問題の解決には男性の参画も必要との考え
のもと、男性も巻き込みつつ、ジェンダー平
等に取り組んでいます。



紛争・自然災害

紛争や自然災害の頻度が高まり、被害
規模も甚大になっています。

世界中にはりめぐらされたグローバルネッ
トワークを活かし、瞬時に緊急支援体制を
確立し、被災者への対応を行っています。
また、災害時において特に弱い立場におか
れやすい女性と女子に配慮した支援を行っ
ています。



ケア・インターナショナル ジャパンは、
2030年に向けて世界が合意した
SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて取り組んでいます。

